

担当研究科	授業科目名	授業担当教員	単位数
医学系 研究科	医療概論	(医)中山啓子教授 (医)青木洋子教授 (医)大和田祐二教授 (医)高瀬 圭教授 (医)酒井寿郎教授 (医)片桐秀樹教授 (教)上埜高志教授 (医)山内正憲教授 (医)辻 一郎教授 (医工)出江紳一教授 他	2
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 座学 [ <input checked="" type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> I S T U [ <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部] <input type="checkbox"/> その他 ( ) 使用言語 [ <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 日本語と英語 ]		
開講期間	2019年5月9日(木)～2020年2月20日(木)		
曜日・時間	火曜日または木曜日 開始 16:30～17:30 90分授業*詳細は別途記載		
キャンパス・建物	星陵キャンパス・医学系研究科6号館 ほか		
講義室等名称	カンファレンス室2 ほか		
授業代表教員	教授 山内正憲(医学系研究科)		
<b>【授業の目的と概要】</b> 未来型医療プログラム「医療概論」では、様々な学問分野(理工学, 経済学, 人間学, 教育学など)の知見や手法を医学・医療と融合させるための, 基本的な医学知識とその実践を理解することを目的としている。「医療概論」を学ぶことで, 生体の仕組みを知り, 実際の臨床での病気や治療について理解が進むことになる。さらに, 現代医療の問題点と未来への展望について, 講師のみならず各受講生の多様な視点を交えた考え方にも触れることになる。			
<b>【学修の到達目標】</b> 「医療概論」では, 必修講義に値する医学の根底と最先端医療を学ぶことに取り組む。さらに, 医学的知識のみならず, 医療の実践についての想像力, 洞察力, 基礎医学と文系理系の枠にとらわれない横断的思考力, 複雑化するグローバル社会での応用力を学ぶことにつながる。			
<b>【授業の内容・方法と進度予定】</b> 科目構成は, 2回の授業を1組として, 1回目の授業ではある医学領域についての基礎・基本を学び, 次の授業でその臨床と社会における応用について知見を深める。適宜講師と受講生の討論を行うことで, 医学だけではない多角的な視点で, 現在の問題点と将来の変化を考察することが可能となる。			
<b>【将来像】</b> 「医療概論」の習得により, 医学・医療の基本・大枠をつかみ, 各受講生の経歴や研究内容に基づく思考を取り入れ, 研究テーマの実現と未来の医療に挑戦することを期待する。			
<b>【その他】</b> 討論内容および授業ノートを評価の一つとします。 実際の履修内容の詳細については, 入学当初のガイダンスや指導教員に従ってください。			

<p><b>第1回 未来型医療創造に携わるみなさんへ</b> 可能性は∞（無限大）(医)中川敦寛特任教授 5月9日(木)17:00～ 未来医療を創造しているイノベーターたちの事例をとりあげながら、このプログラムを通じて学生のみなさんがどういったスキルセット、マインドセットを学んでいただき、将来、何を達成するか、どういった世界観の実現にチャレンジするかを考えていただくきっかけとしたい。</p>	<p><b>第2回 遺伝学とゲノム医療への展開</b> (医)青木洋子教授 5月14日(火)17:30～ 医療に必要なヒト遺伝学の基礎と、実際の臨床で行われているゲノム医療・遺伝カウンセリングについて学ぶ。</p>
<p><b>第3回 人体の構造とはたらき</b> (医)大和田祐二教授 6月6日(木)16:30～ 人体は、細胞・組織・器官に形づくられる。人体の階層性や正常構造の理解は、医学分野すべての学習において、不可欠である。本講義では、人体の構造と働きについての基本を概説する。</p>	<p><b>第4回 画像解剖学</b> (医)高瀬 圭教授 6月20日(木)17:30～ CT, MRI, X線単純写真等の臨床医学で用いる医用画像での断層画像や投影画像を通じて、正常の解剖学的構造がどのように画像で捉えられるかを学習し、画像診断に必要な人体解剖の概要を学ぶ。</p>
<p><b>第5回 生活習慣病におけるゲノムサイエンス</b> (医)酒井寿郎教授 9月26日(木)16:30～ 肥満、動脈硬化・糖脂質代謝異常症など生活習慣病は先進国の間で急速に増えつづけ深刻な健康問題となっている。本講義では病気の解明と治療に、分子遺伝学アプローチから、現在のゲノムワイド解析による環境と遺伝素因を対象としたアプローチについて学ぶ。</p>	<p><b>第6回 代謝疾患治療の最前線</b> (医)片桐秀樹教授 10月1日(火)16:30～ 糖尿病は、現代を代表する国民病であり、多くの重篤な疾患のもととなる。食事療法中心の診療はかつてのものとなり、最近の進展は著しい。これを理解するには、全身の臓器の代謝を把握する必要があり、新たな治療法の展望も含め、最前線を学ぶ。</p>
<p><b>第7回 臨床心理と行動</b> (教)上埜高志教授 11月19日(火)16:30～ 古来、哲学のもっとも重要なテーマとされている「心身問題／心身相関」が、現在、認知科学・脳科学・コンピュータサイエンスなどとの関連で議論されている。これらに関する討論を通して、人間のこころと行動への理解を深める。</p>	<p><b>第8回 痛みの診察とリハビリテーション</b> (医)山内正憲教授 11月28日(木)16:30～ 痛みは身体的な感覚だけでなく、心理的に修飾されること、さらに体内の鎮痛機構の賦活や運動を促進することが治療となり、生活にも影響することを学ぶ。</p>
<p><b>第9回 医療の経済分析：効果的な資源配分のために</b> (加齢)吉田 浩教授 1月14日(火)16:30～ 企業経営がより少ない元手でより多くの収益を追求することであれば、医療経済はより少ない医療資源でもより多くの人の命を救う配分を考えることも言える。この講義では、現在の日本の医療資源とその成果と統計を用いつつ確認していく。</p>	<p><b>第10回 口から見た地域と社会の健康のための処方箋</b> (歯)小坂 健教授 1月30日(木)17:00～ 医療、介護、障がい、生活困窮者支援といった垣根を超えた「ごちゃまぜ」の動きが地域で出てきている。我々が実施しているJAGES日本老年学的調査研究、岩沼プロジェクトなどのコホート研究を通じてわかった健康と社会との関係について報告するとともに、これからの地域共生社会のあり方を皆で考える。</p>
<p><b>第11回 生活を支えるリハビリテーション医工学</b> (医工)出江紳一教授 2月18日(火)16:30～ 「生活の視点から障害や疾病を捉え、多職種協働によって環境への再適応を支援する」医療を理解し、医工融合教育研究が果たす役割を考えます。</p>	<p><b>第12回 医療を支える医工学</b> (工)金井 浩教授 2月20日(木)16:30～ 医工学の基礎となる方法論と生体の特性について概観し、また医工学機器についてもその原理を講義する。最後に日本の医療機器産業の動向にも触れる。</p>